

## 2020年夏季ボーナスアンケート調査

### 今夏のボーナス予想支給額は、「下回る」の回答割合が増加

～製造業、非製造業ともに大幅に悪化～

2020年夏季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを、官公庁・民間企業等に勤務する給与所得者世帯を対象にアンケート調査を行いました。

#### 【ポイント】

##### ○ボーナス支給額の増減予想（昨年夏比）

全体（官公庁・民間企業等）では、「上回る」が9.8%、「下回る」が24.7%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は▲14.9（昨年夏▲1.8）と、2年連続でマイナスとなった。背景には新型コロナウイルス感染症の影響があるものと考えられる。民間企業では、製造業、非製造業ともに大幅に悪化した（製造業：昨年夏▲12.5→今年夏▲40.0、非製造業：同▲7.6→同▲22.8）。

##### ○ボーナス予想支給額

『40万円未満』が全体の約6割を占めた。また、『60万円以上』（「60～80万円未満」、「80～100万円未満」、「100万円以上」の合計）は増加した。

##### ○ボーナスの使い道

首位は「預貯金」と堅実な姿勢が継続している。また、昨年夏と比べ「預貯金」、「生活費補てん」が増加した一方で、「旅行・レジャー」の割合が減少した。

##### ○ボーナスを貯蓄する目的

首位は「老後の生活への備え」、続いて「特に目的はないが安心だから」となった。また、昨年夏と比べ「病気・災害への備え」が最も増加した一方で、「旅行・レジャー資金」が最も減少した。

##### ○ボーナスの運用方法

7割超が「銀行普通預金」を選択し、次いで「銀行定期預金」となった。また、昨年夏と比べ「銀行普通預金」が最も増加した。

#### 【調査要領】

1. 期 間 2020年6月1日～6月17日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法 当行本支店等の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,480枚）、返信用封筒により回収（または、Webで回答）
4. 回 答 数 有効回答数533（回収率21.5%）（うちアンケート用紙：503枚）  
（県別内訳：鳥取県237、島根県293、不明3）

# 設問 1. 今年の夏のボーナス支給額は昨年の夏に比べてどうなると予想されますか？

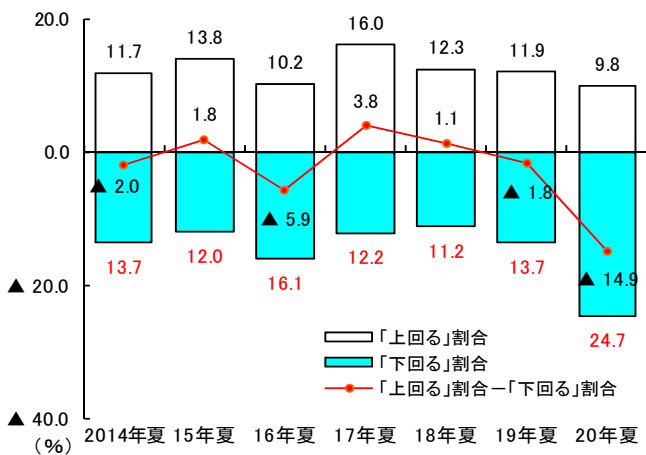
～「下回る」割合が「上回る」割合を超える～

## ① 全体

今年の夏のボーナス支給額について、昨年夏と比較して「上回る」と予想する世帯割合\*は、全体で9.8%（昨年夏比 2.1 ポイント減）、「下回る」は 24.7%（同 11.0 ポイント増）、「同じくらい」は 65.5%（同 8.9 ポイント減）となりました。

「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は▲14.9 と 2年連続でマイナスとなりました（昨年夏比では 13.1 ポイント悪化）。背景には新型コロナウイルス感染症の影響があるものと考えられます。

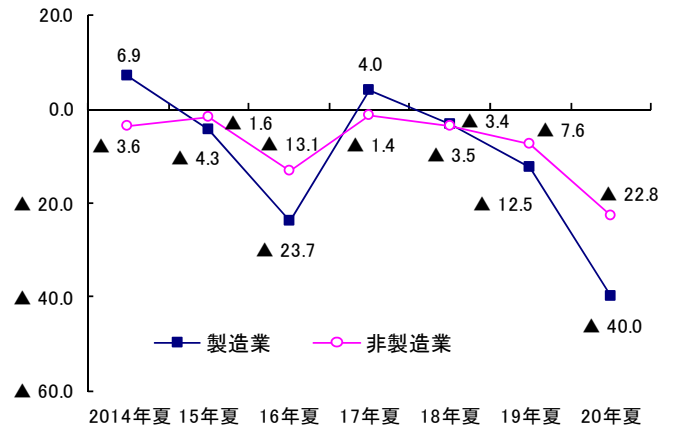
図示していませんが、県別にみると、鳥取県は▲10.8（同 12.1 ポイント悪化）、島根県は▲18.6（同 14.5 ポイント悪化）となりました。



※上記割合は「支給なし」を控除して算出している。  
「支給なし」を算入した場合、「支給なし」は全体の 14.5% となる（昨年夏 10.3%）。

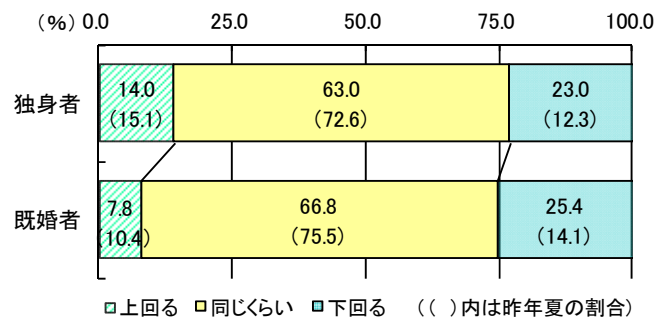
## ② 製造業・非製造業別

全体のうち民間企業に勤務する世帯（官公庁等を除く）について、製造業・非製造業別に「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値の推移をみると、製造業、非製造業ともに大幅に悪化しました（製造業：昨年夏▲12.5 →今年夏▲40.0、非製造業：同▲7.6 →同▲22.8）。



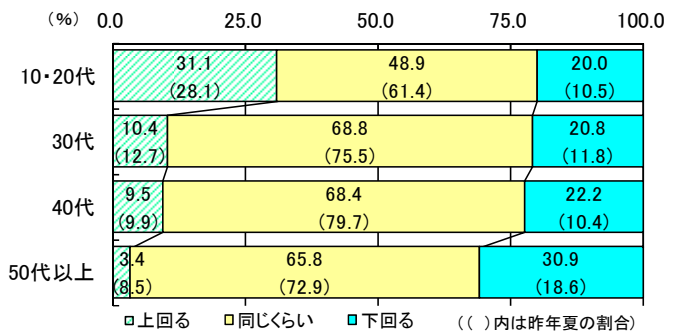
## ③ 独身者・既婚者別

昨年夏と比べると、「上回る」では独身者で 1.1 ポイント減少、既婚者は 2.6 ポイント減少となり、「下回る」では独身者で 10.7 ポイント増加、既婚者は 11.3 ポイント増加となりました。



## ④ 年代別

年代別にみると、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値が、すべての年代で昨年夏と比べ減少（悪化）しました（10・20代：昨年夏 17.6 →今年夏 11.1、30代：昨年夏 0.9 →今年夏▲10.4、40代：昨年夏▲0.5 →今年夏▲12.7、50代以上：昨年夏▲10.1 →今年夏▲27.5）。



※四捨五入の関係で合計が 100% とならない場合がある、以下同じ。

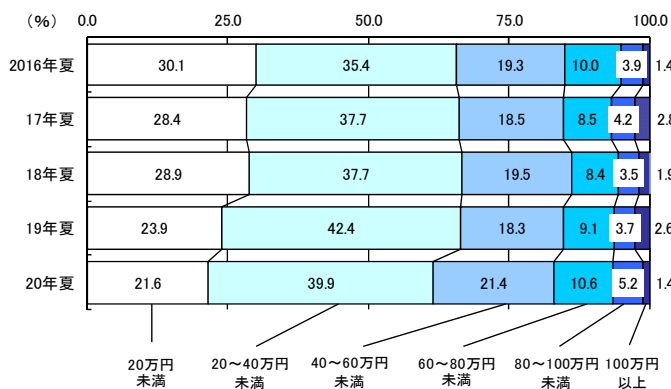
## 設問2. 今年の夏のボーナス支給額(税込)は、どのくらいになると予想されますか？

～『40万円未満』が全体の約6割を占める～

### ① 全体

今年の夏のボーナス予想支給額をたずねたところ、最も多いのは「20～40万円未満 (39.9%、昨年夏比2.5ポイント減)」となり、以下、「20万円未満 (21.6%、同2.3ポイント減)」、「40～60万円未満 (21.4%、同3.1ポイント増)」と続きました。『40万円未満』(「20万円未満」、「20～40万円未満」の合計)は全体の約6割 (61.5%) を占めています。

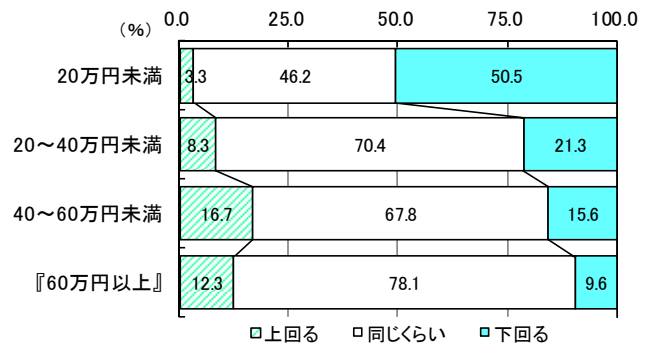
また、『60万円以上』(「60～80万円未満」、「80～100万円未満」、「100万円以上」の合計)についてみると、今年夏は17.2% (同1.8ポイント増) と増加しています。



※今回「支給なし」の割合が増加したため、結果的に『40万円以上』の層の割合が増加傾向にある点に留意が必要。

### ② 支給額区別増減予想の割合

支給額区別に、増減予想 (設問1の回答) の割合をみると、「上回る」割合が最も高い金額区分は、「40～60万円未満 (16.7%)」で、次いで『60万円以上 (12.3%)』となっています。一方、「下回る」割合が最も高い金額区分は「20万円未満 (50.5%)」で、以下、「20～40万円未満 (21.3%)」となっています。

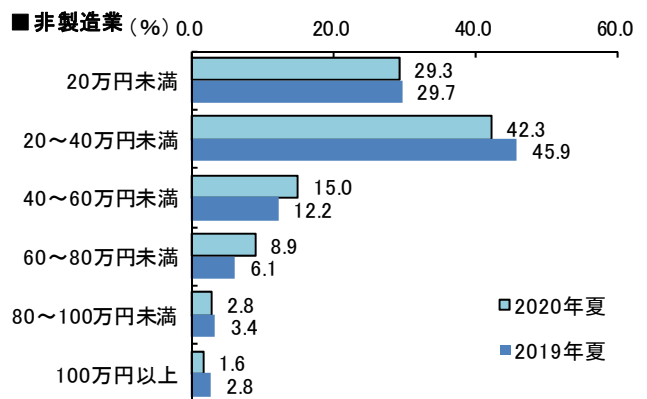
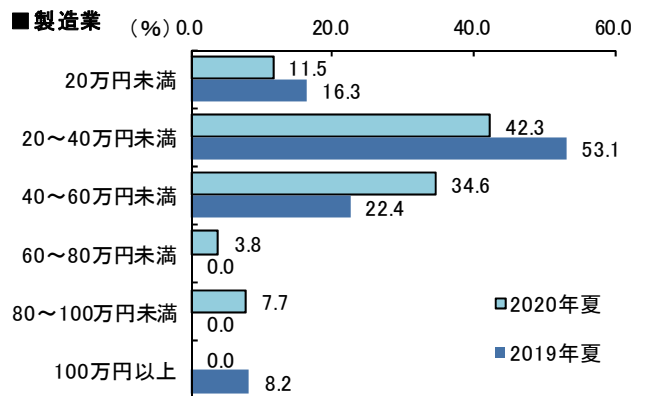


※今回は「80～100万円未満」、「100万円以上」の回答数が少なかったことから、『60万円以上』として合算表示。

### ③ 製造業・非製造業別

製造業・非製造業別にみると、昨年夏と比べ、製造業では「40～60万円未満 (34.6%、昨年夏比12.2ポイント増)」が最も増加し、「20～40万円未満 (42.3%、同10.8ポイント減)」が最も減少しました。

非製造業では、「40～60万円未満 (15.0%、昨年夏比2.8ポイント増)」と「60～80万円未満 (8.9%、同2.8ポイント増)」が最も増加し、「20～40万円未満 (42.3%、同3.6ポイント減)」が最も減少しました。



### 設問3. 今年の夏のボーナスはどのようにお使いになりますか？

～首位は「預貯金」で堅実な姿勢が継続～

#### ① 全体

ボーナスの使い道について合計 100%の配分比率でたずねたところ、上位3項目の順位は「預貯金 (45.5%)」、「生活費補てん (18.1%)」、「借入金返済 (11.4%)」と、例年通りの結果となりました。

昨年夏と比べると、最も増加した項目は「預貯金 (2.6ポイント増)」となり、続いて「生活費補てん (1.3ポイント増)」となりました。一方、最も減少した項目は「旅行・レジャー (5.0ポイント減)」となり、続いて「借入金返済 (0.6ポイント減)」となりました。

#### ② 独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、いずれも「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年夏に比べ最も増加した項目は、独身者、既婚者ともに「預貯金 (独身者：51.8%、昨年夏比 3.7

ポイント増、既婚者：43.0%、同 1.9ポイント増)」となり、最も減少した項目は、独身者、既婚者ともに「旅行・レジャー (独身者：6.2%、同 5.5ポイント減、既婚者：4.0%、同 4.7ポイント減)」となっています。

#### ③ 年代別

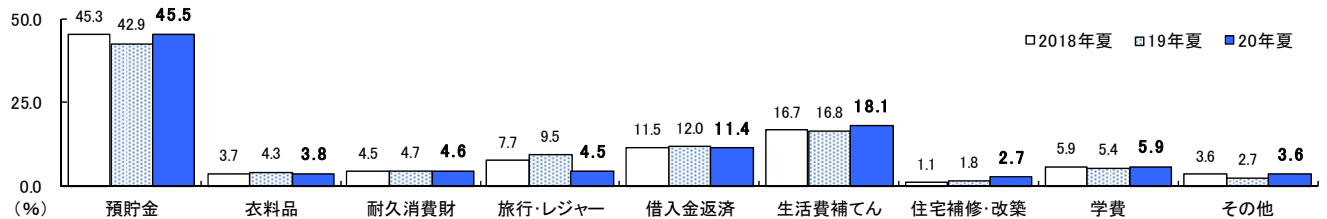
年代別にみると、すべての年代で「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年夏に比べ最も増加した項目は、10・20代は「その他 (3.8ポイント増)」、30代、40代は「預貯金 (30代：6.1ポイント増、40代：7.0ポイント増)」、50代以上は「生活費補てん (4.6ポイント増)」となりました。一方、最も減少した項目は、10・20代は「借入金返済 (4.3ポイント減)」、30代、40代、50代以上は「旅行・レジャー (30代：6.4ポイント減、40代：5.5ポイント減、50代以上：4.6ポイント減)」となりました。

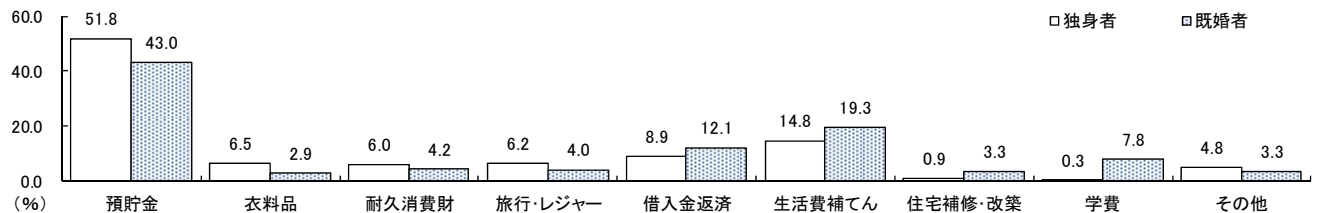
貯蓄志向は依然として根強く、昨年夏に比べ、すべての年代で消費 (旅行・レジャーなど) に対する意欲が下がったことがうかがえます。

「その他」の回答として「保険料」、「車検費用」等がありました。

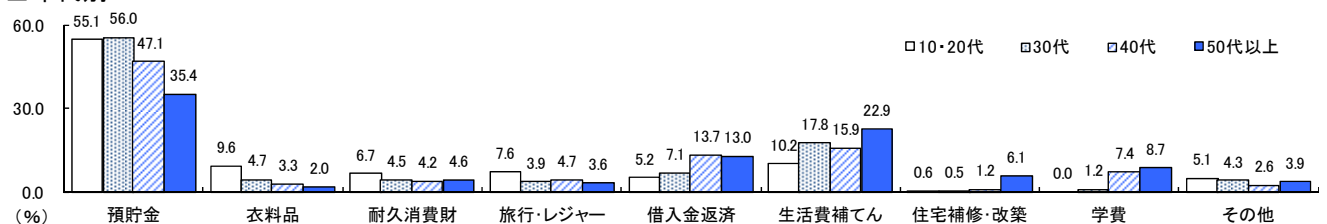
#### ■全体 (3カ年比較)



#### ■独身者・既婚者別



#### ■年代別



## 設問4. ボーナスを貯蓄（投資）する主な目的は何ですか？（3つまで）

～「老後の生活への備え」が最多、

将来への備えを重視する傾向が続く～

ボーナスを貯蓄（投資）する場合の主な目的（3つまで）をたずねたところ、割合の多い順に「老後の生活への備え（50.8%）」、「特に目的はないが安心だから（43.1%）」、「耐久消費財の購入（38.1%）」、「教育資金（32.5%）」、「病気・災害への備え（31.2%）」などとなりました。

上位5項目の昨年夏との比較では、「教育資金（昨夏5位→今夏4位）」と「病気・災害への備え（昨夏6位→今夏5位）」が順位を上げる一方、「旅行・レジャー資金（昨夏4位→今夏6位）」が順位を下げました。また、最も増加した項目が「病気・災害への備え（5.1ポイント増）」、最も減少した項目が「旅行・レジャー資金（5.4ポイント減）」となりました。将来への備えをより重視する傾向

にあることがうかがえます。

独身者・既婚者別にみると、最も多かった回答は、独身者が「特に目的はないが安心だから（59.6%）」、既婚者が「老後の生活への備え（51.7%）」となりました。2位以下の項目をみると、独身者では「老後の生活への備え（45.7%）」、「耐久消費財の購入（33.0%）」の順となっています。一方、既婚者では「教育資金（40.3%）」、「耐久消費財の購入（40.0%）」の順となっています。

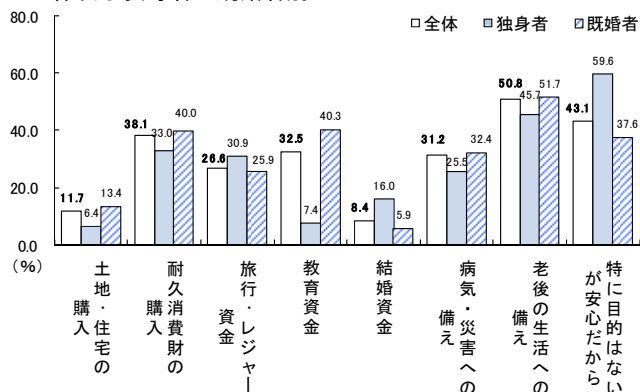
年代別に最も高い割合をみると、10・20代、30代では「特に目的はないが安心だから（10・20代：60.5%、30代：53.5%）」、40代では「教育資金（48.3%）」、50代以上では「老後の生活への備え（71.4%）」となっています。年代別で最も増加した項目は10・20代では「旅行・レジャー資金（14.9ポイント増）」、30代では「老後の生活への備え（15.2ポイント増）」、40代では「病気・災害への備え（7.5ポイント増）」、50代以上では「耐久消費財の購入（6.5ポイント増）」となりました。

《上位5項目》

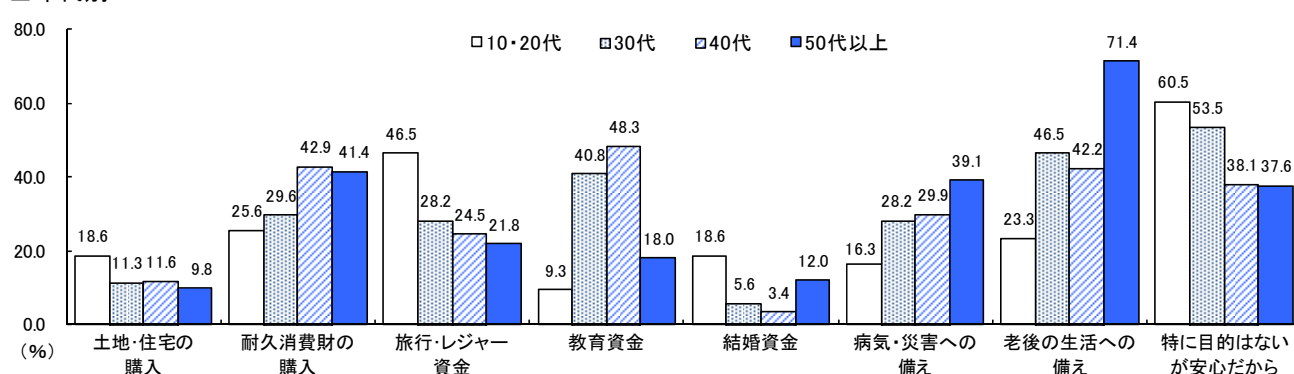
（単位：％）

	2019年夏		2020年夏	
1位	老後の生活への備え	51.5	老後の生活への備え	50.8
2位	特に目的はないが安心だから	46.8	特に目的はないが安心だから	43.1
3位	耐久消費財の購入	40.0	耐久消費財の購入	38.1
4位	旅行・レジャー資金	32.0	教育資金	32.5
5位	教育資金	30.6	病気・災害への備え	31.2

■全体及び独身者・既婚者別



■年代別



**設問5. 夏のボーナスを貯蓄（投資）される場合  
どんな方法でされますか？（複数回答）**

～7割超が「銀行普通預金」を選択し、

昨年夏に比べその割合が最も増加～

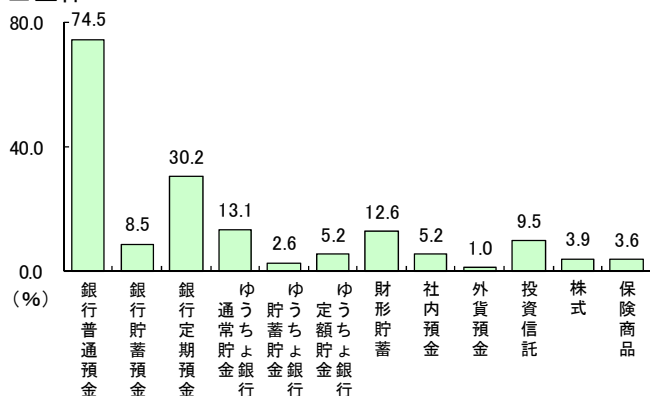
ボーナスの運用方法（複数回答）をたずねたところ、最も多かった回答は「銀行普通預金（74.5%）」であり、以下、「銀行定期預金（30.2%）」、「ゆうちょ銀行通常貯金（13.1%）」、「財形貯蓄（12.6%）」、「投資信託（9.5%）」と続きました。

昨年夏と比べ、「銀行普通預金」が1.4ポイント増と最も増加しました。

また、「投資信託」以外のリスク性商品については、「保険商品（昨年夏 3.5%→今年夏 3.6%）」、「株式（昨年夏 3.1%→今年夏 3.9%）」は増加し、「外貨預金（昨年夏 2.5%→今年夏 1.0%）」は減少となりました。総じてみると、預貯金への志向は依然として強く、慎重な傾向がみられます。

予想支給額（金額階層 3 区分\*）別にみると、最も回答割合の高い商品は『40万円未満』、『40万円以上 80万円未満』は「銀行普通預金」、『80万円以上』は「銀行定期預金」となっています。また、『80万円以上』では、「財形貯蓄」、「社内預金」が他と比べ高くなっており、堅実な姿勢が続いています。

■全体



(注) 上記以外「その他(0.5%)」、「外国債券(0.3%)」、「公社債(国債等)(0.3%)」、「貸付・金銭信託(0.0%)」

《上位5項目》

(単位: %)

	2019年夏		2020年夏	
1位	銀行普通預金	73.1	銀行普通預金	74.5
2位	銀行定期預金	36.4	銀行定期預金	30.2
3位	財形貯蓄	14.7	ゆうちょ銀行通常貯金	13.1
4位	ゆうちょ銀行通常貯金	13.4	財形貯蓄	12.6
5位	投資信託	9.7	投資信託	9.5

■予想支給額別(※金額階層3区分 □40万円未満 □40～80万円未満 □80万円以上)

